

# スマホで小中高の視力過去最悪

## 裸眼視力 1.0 未満、文科省

裸眼の視力が 1.0 に満たない小中高生の割合が増え、過去最悪となったことが 22 日、文部科学省の 2016 年度学校保健統計調査（速報値）で分かった。文科省は「スマートフォンやテレビゲームが普及し、物を近くで見る習慣が身に付いたことが影響した」と分析した。

肥満傾向児の割合は前年度より微増の学年が多かったが、長期的には減少傾向。虫歯の割合も減って中高生は過去最低となり、文科省はいずれも生活習慣改善が背景にあるとみている。

視力が低い子どもは近年増え続けている。今回、裸眼視力が 1.0 未満の割合は、小学校 31.46%、中学校 54.63%、高校 65.98%だった。

（共同通信）

<https://this.kiji.is/184577485734430198?c=110564226228225532>

## 小中高生の視力、過去最悪に スマホ普及など要因か 文科省調査

フジテレビ系 (FNN) 12/23(金) 4:59 配信

裸眼視力が、1.0 未満の子どもの割合が、小中高生で過去最悪となったことが、文部科学省の調査でわかった。

調査は、全国の 5 歳から 17 歳の子ども、およそ 350 万人を対象に行われた。裸眼視力については、低下傾向が続いていて、視力 1.0 未満の子どもは、小学校で 31.46%、中学校で 54.63%、高校で 65.98%となり、それぞれ、1979 年の調査開始以降、過去最悪となった。

文科省は、「スマートフォンやパソコンなどの普及で、近くで画面を見る機会が増えたことが、1 つの要因ではないか」としている。

一方、虫歯の割合は、中学校(37.49%)と高校(49.19%)で、1949 年の調査開始以降、過去最低となった。

<http://headlines.yahoo.co.jp/videonews/fnn?a=20161223-00000342-fnn-soci>